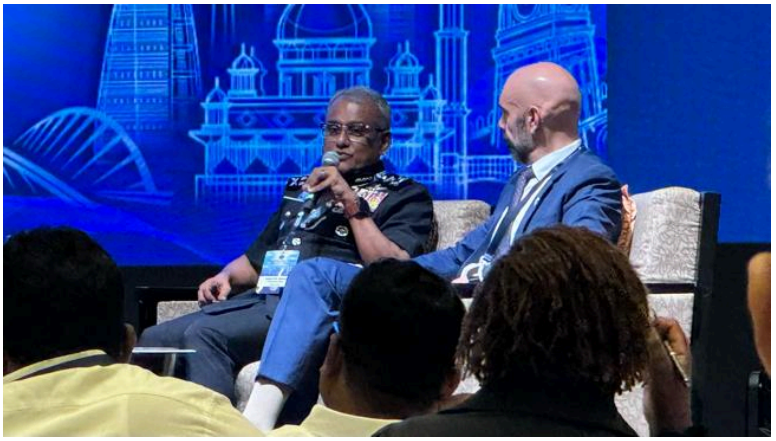
2024年10月

私たちが加盟している世界協会WAD（World Association Ditective）の国際カンファレンスがマレーシア、クアラルンプールで開催された。このWAD 99th Annual Conferenceは観光地で有名なペトラナスツインタワーの間近、グランドハイアットで開かれ今年はインドやシンガポールといった東南アジア系の調査会社が多数出席。日程は9/24（火）～9/28（土）、初めの3日間は役員打ち合わせを行い、最後2日間でメンバー向けの講演、懇親会が催された。日本からは7社ほど参加あり、実は日本人同士でも初対面の機会ともなる。もし現段階でWADへの加盟を検討している場合、参考にしてほしい。

各講演のダイジェスト
1日目は主にマレーシアの調査業以外のスピーカーを招き、サイバー犯罪に関する講演。
2日目はセキュリティ、コンサルタント系の調査会社からの講演。その多くは仮想通貨、AI、オンライン詐欺といった要素が多かった。

（1日目）

基調講演～マレーシアにおける金融犯罪とオンライン詐欺の傾向
マレーシア王立警察商業犯罪捜査局（CCID）
Dato' Sri Ramli Mohamed Yoosuf 局長

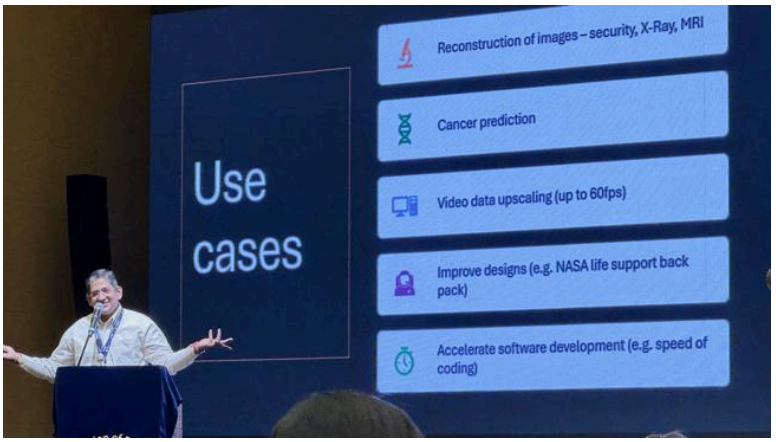


マレーシアにおける金融犯罪、オンライン詐欺の対策が語られる。いじめ、麻薬密売、児童ポルノなどのネット利用によるものをサイバー犯罪、ハッキングやランサムウェアなどのシステム由来のものをサイバー依存犯罪とカテゴリングし、別途対処している。

セッション1～次世代探偵のエンパワーメント
ジョンジェイカレッジ
Chelsea Binns 助教授

Chelsea Binns助教授は恵比寿のWAD加盟探偵社、ファミリー調査事務所のアドバイザーとしても活躍している。次世代探偵のパワーアップに必要な3要素として知識、現場実行能力、そして教育を語る。

セッション2～企業セキュリティの変革における人工知能技術の活用
マレーシア国際医療大学
Ts.Dr. Saravanan Muthaiyah 教授



マレーシアにおけるデジタルヘルスの事例を取り上げられ、探偵の調査への流用が発表された。AIによるビッグデータ処理でイレギュラーを事前に対処する方法を述べた。

セッション3～ AI とサイバーセキュリティの機会と課題
マイクロソフトマレーシア
Jasmine Begum 博士

サイバー犯罪の被害額は年間6兆ドルとされ近年内に10兆ドルに達する見込み。パスワードハッキングのような最も多い事例から、紛争国主導による希少な事例、広範囲の講演であった。

（二日目）

セッション4～調査におけるドローンの使用
ケーシージェリー法律事務所（アメリカ）
Jay Paulino, CCPI 幹部調査員

交通事故調査のような難所でのドローン使用、所持のための保険加入など最新の事例が紹介される。日本の調査会社での活用は規制により現実的でない。

セッション5～リスクと脅威の評価に対する 4-2-1 アプローチ
ローカムインターナショナルグループ（シンガポール）
Stanley Tan 法廷弁護士

リスクに対する手段を害意➡手段➡脆弱性でカテゴライズし、そこからさらにインサイト、ミティゲーション、レジレンスで対処するというコンサルタントらしい論理的なアプローチが述べられる。

セッション6～トピック: アジアにおける仮想通貨詐欺
カレントコンサルティンググループ（香港）
Björn Wahlström CEO

豚の屠殺詐欺、ロマンス詐欺といった詐欺の傾向を踏まえ、さらに仮想通貨詐欺について説明。仮想通貨規制のいくつかのメリット、探偵の役割がどのように変化するかなどについても取り上げられる。

（パネルディスカッション）
Mike Lacorte John Nardizzi / John Nardizzi / Alexey Solomanidin
Rina Hatano / Nitul Shah / Juan Giraldo

日本からはファミリー探偵事務所の波多野氏が登壇。各国で探偵がライセンス制であるかという質問では、ライセンス所持は約半々であると判明する。ライセンス制による情報取得のメリットが語られると、日本で活動するAngelino Schintu社のアンジェリーノ代表は各国内のWADメンバーで協力しロビー活動するなどの提案も起きた。

1日目ランチ

セミナーの2日間、2回のランチミーティングと最終日のガラディナーで3回懇親会があった。それだけでなくコーヒーブレイク中も頻繁に名刺交換が行われ情報交換できる機会はかなり多い。一番多い質問は「その国の探偵はどんな情報にアクセスできるか？」であり、これは他国と対比した良し悪しを常に言えるようにしなければならない。数年越しの国際カンファレンス参加ということもあり、国際依頼のあった調査会社への挨拶だけでも忙しいくらいであった。

WADカンファレンスともなると、どのメンバーもまるで国を代表したような気概を感じる。英語コミュニケーションは国内のときより試され、打ち解けるのも大変だ。しかしその先に、本国に戻ってからの国際間の調査会社の交流が始まる。和気あいあいつつ、切磋琢磨するような研修であった。